

第3回 部会検討結果報告書（健康・福祉部会）

記録者	保坂 将太	場所	市役所北庁舎第1・2・3会議室	
開催日時・場所	平成26年8月27日（土） 午前10時00分 ~ 12時5分			
出席者 （10名）	糟谷 知香子	金岡 健二	小出 由美子	宮崎 一司
	宮原 亮	宮前 祐子	桂川 由貴	高畑 翔吾
	竹内 遼	保坂 将太		
傍聴者	1名			

基本施策名	健康づくりの推進
-------	----------

今後（後期期間で）予想される新たなニーズ・課題（ウ）について

予想される新たなニーズ

- ・中高生の「こころと体の健康づくり」フォローが不足している。
こころも体も成長途上の思春期では、生活習慣やメンタルヘルスが大切である。健康増進のためにもアプローチしていくことが必要である。
- ・定年退職後のライフプラン

市民の目から見た課題

- ・広報の方法（意識付け）について、健診内容により受診率に差がみられる。市民の意識向上を図る必要がある。
- ・乳幼児健診や予防接種の申込みが複雑化し、簡単に受診できるようにする必要がある。
- ・健診費用の負担軽減が求められる。
- ・食育に関する具体的な市の施策が見えない。
- ・何か問題が出来た時にしか行かないという意識をどうするか。
- ・介護予防教室を開催する場所が少ない。

その他の意見

- ・がん検診受診率について、「東京都の平均値と比べて低い」とあるが、東京都と府中市の平均値が知りたい。また、健診条件は同様なのか。
- ・市で行っている健診以外の受診率について知りたい。
- ・受診率が低い理由は、会社員やその家族は加入保険組合で受診しているためか。また、各組合の健診率を含む全てのデータを取入れなければ全体像は見えない。

後期基本計画策定に向けた見直しの論点（H30～33年度）（エ）について

健康づくりの支援

- ・健康応援ガイドの配布場所の充実化
- ・健診の広報周知の充実化
- ・健診の費用助成
- ・民間企業の健診と重複する部分の精査
- ・現役時代から定年退職後のライフプランのサポート
- ・健診などの情報提供の見直し
- ・精神面のサポート
- ・高齢者の食育
- ・介護予防教室の開催場所の充実化

母子保健の充実

- ・乳幼児の複雑化した予防接種の簡素化（接種時期・接種条件・同時接種など）
- ・乳幼児予防接種の費用助成
- ・乳児健診の効率的な運営
- ・乳幼児健診の項目を時代に適した見直し

協働の実践に向けて（オ）について

健康づくり支援

- ・健診内容の見直し（レベルアップ）
- ・受診率の向上
 - ポイント制
 - 未受診者へのペナルティー
 - 義務化
 - いつでも受診できるようにする
 - 一人ひとりの健診の日程を決める
- ・高齢者食育
 - 給食センターとタイアップし、簡単に作れる料理教室を開催。（特に男性や一人暮らし）
 - 配食サービスの導入
- ・中高生の健康（学校・保護者との連携）
- ・地域毎に健康予防への支援（介護予防の自主グループや地域包括支援センターと連携）
- ・健康づくりのための施設整備（空き家などの活用）
- 地域医療体制の整備
- ・医療機関と連携し、一般・乳幼児健診の受診場所及び日程の拡充を図る。

第3回 部会検討結果報告書（健康・福祉部会）

記録者	高畑 翔吾	場所	市役所北庁舎第1・2・3会議室		
開催日時・場所	平成26年8月27日（土） 午前10時00分 ~ 12時5分				
出席者 （10名）	糟谷 知香子	金岡 健二	小出 由美子	宮崎 一司	
	宮原 亮	宮前 祐子	桂川 由貴	高畑 翔吾	
	竹内 遼	保坂 将太			
傍聴者	1名				

基本施策名	高齢者サービスの充実
-------	------------

今後（後期期間で）予想される新たなニーズ・課題（ウ）について

予想される新たなニーズ

- ・介護に携わる人々へのサポート。働き手不足の解消
- ・若者と高齢者の世代間交流
- ・生涯現役で働きたいという人が増加することにもなう雇用の問題

市民の目から見た課題

- ・「老人」の定義の見直し。（年齢を引き上げてもいいのではないか。）
- ・老人クラブの会員の増加に向けた取り組み。
- ・幅広い職種の求人募集（退職後に紹介される仕事の種類が少ないため。）

その他の意見

- ・「包括支援」という言葉が難しい。「誰でも相談室」などわかりやすい言葉にするといいのではないか。

後期基本計画策定に向けた見直しの論点（H30～33年度）（エ）について

生きがいづくりの支援

- ・ 庁内組織（老人クラブ）の充実化
- ・ 包括支援センターのフル活用。高齢者からの相談受付件数を増やす。

就労支援

- ・ 多種多様な求人の紹介

生活支援

- ・ 退職後、ひきこもりになった人へのサポートはできるが、それを未然に防ぐようなサポートが必要なのではないか。
- ・ 介護施設の働き手不足の解消
- ・ 民生委員との連携

介護保険制度の円滑な運営

- ・ 前期高齢者だけでなく後期高齢者の要介護認定率についても指標の1つに組み込む。

その他

- ・ 情報をわかりやすく公開する。

協働の実践に向けて（オ）について

生きがいづくりの支援

- ・ スポーツクラブとの連携
- ・ 文化センターでの地域交流の活用

就労支援

- ・ 一般企業（市内企業）と連携し高齢者の求人を増やす。

生活支援

- ・ 市が資格制度をつくり多くの人々が介護サービスに携われる仕組み作りを行う。
- ・ 小中学生への介護体験の実施
- ・ 1人暮らし家庭へお弁当の宅配サービスの実施（食のサポート）
- ・ 介護職（専門職）にしかできない介護と家族ができる介護を分け、介護職に携わる人の負担軽減とともに、みんなで介護をする意識向上を図る。